

自己理解が深まったインターンシップ

総合管理学部 3年 原田愛子

・活動内容

私は、カンボジア発のハンドメイドアパレルブランドの SuiJoh という企業で約 1 か月間インターンシップをさせていただきました。

私がカンボジアでのインターンシップに参加しようと思った理由は、将来は海外で働いてみたいという気持ちがあり、実際にはどのような感じなのかを知ることができるいい機会になると思ったからです。また、SuiJoh でインターンシップを行おうと思った理由は、SuiJoh の理念である「大量生産・大量消費の製品にはない、一品物の味わいで日常に小さな Happy を」という理念と、人との繋がりを大切にしているというところに惹かれたのと、将来海外雑貨の流通に関わる仕事に就きたいという考えもあったため、商品が生産されている現場を見ることができ、実際に生産からお客様の手に渡るまでのプロセスを知ることができると思ったからです。

私がこのインターンシップで行ったことは、着物リメイクプロジェクトという使われなくなった着物を利用して新しい製品を作るプロジェクトと動画作成、インスタグラムへの投稿、野外での商品の撮影です。

まず、着物リメイクプロジェクトでは、リメイクする製品のデザインを考えること、製品が出来上がるまでの工程をインスタグラムのストーリーに投稿すること、製作工程をまとめた動画を作ることを行いました。

動画作成については、着物リメイクプロジェクトに関する動画作成と、SuiJoh について紹介する動画を作り、インスタグラムに投稿することを行いました。

インスタグラムについては、着物リメイクプロジェクトに関する投稿の画像を作成し、キャプションの文章を考えました。他にも、クロマーというカンボジア伝統の手ぬぐい/スカーフについて紹介する投稿や、学んできた韓国語を活かして、韓国の方たち向けのプロモーションとして SuiJoh について紹介する投稿の作成を行いました。

外での撮影は、SuiJoh に同時期にインターンとして来ていた日本人インターン 2 人と、フランスの方と一緒に商品の広報を行うために行いました。この撮影での写真は、3 人で インスタグラムの投稿、ストーリー、Twitter と担当の SNS を分け、編集しました。3 人で同じ仕事を行うことで、互いの意見を調節することの難しさや、緻密に計画を立てることの大変さと重要性、計画がうまくいった達成感を感じることができました。

・学んだこと

私は、このインターンシップを通して、自分は何が得意で何が苦手なのか知り、何事にも挑戦することの大切さを学びました。

自分は、話し合いの場で意見を整理したりまとめることが得意だということに気づいたし、短い文字制限のなかで魅力を伝えられるような文章を考えることが得意で楽しいと感じました。また、一人で考

えて物事を進めることはできるけれど、複数人で行うプロジェクトでリーダーシップをとることは苦手だなとも感じました。一人でプロジェクトを進めていくにあたり、試行錯誤しながら動画を作ったり、インスタグラムの投稿を行うこともなかなかできない経験であり、よりよく仕上げるためにレイアウトや文章を考える作業は難しくもあり、楽しくも感じました。

これまで私は長期間でのインターンシップを経験したことがなく、自分が実際に働くイメージを持って、何をすることが得意か、何をすることが苦手かについてよくわかりませんでした。しかし、1ヶ月間でいろいろな業務を経験する中で、やりながら得意だったり、難しいけど楽しいと感じることもや、苦手だと感じることもあり、自分自身について見つめ直し、自己理解を深めることができました。

また、私は何をすることも失敗することを先に考え、挑戦することをためらうことが多くありました。インターンシップでは初めて取り組むことも多く、はじめは自分自身がやり遂げられるか不安でしたが、一つ一つのプロジェクトを終わらせていくごとに、自分でも挑戦してみればうまく終わらせることができるし、周りの人からも自分が作った動画が好きと言ってもらったり、考えたデザインに対していいデザインだね、といった良い反応をいただき、自分に自信がついたし、挑戦することの大切さ、挑戦して感じられる楽しさ、自己成長を感じ、何事もまず一度トライしてみることが大切だということを学びました。



SuiJoh の店内



着物リメイクプロジェクトで作ったランチマット



野外での撮影の様子



インスタグラムでの投稿